

I. 小さな旅 11

小さな旅 13

これも「別れ」 17

もう一つのスピリチュアル
為さん逝く 25

「野分」吹くころ 29

お経をよむ 33

診療日を閉じる 37

II. 記憶力低下を楽しむ 41

年賀状 43

風邪の治し方 47

「秋来ぬと目にはさやかにみえねども」
座るということ 55

雨、雨、雨―セブの雨 58

記憶力低下を楽しむ 61

癒し人が癒しを必要とする時代 65

III. 老人の主張 69

私は良心を今年の流行に合わせて裁断することはできません 71

「ガラスの檻」始末記 76

ささくれだった「ころ」 80

一週間 84

「やっぱり桜は白い…だからどうした」というハナシ 87

老人の主張 92

「六九歳」あるいは「二〇〇六年一月」 97

近隣形成拒否症候群あるいは「ふるさと」喪失症候群 104

IV. 「石の上にも三日」 107

「石の上にも三日」 109

ぼくらは無人島探検隊 114

小さな町の心地よい風 119

「みのもんた」は神様か 123

若者の創る世界 126

V. 人と人 131

「観劇」とは異時限空間テレポーテーションである 133

人と人と	141
若さとはなにか	148
師はいつも先を行く	153
名古屋について	156

VI. 闇の豊かさ

161

「散歩ができない」症候群	163
ランドローバーは砂漠に対する「冒涇」である	167
猫——きやつと、した「ねこ」	170

「ジジ・ババ馬鹿」についてのバカ話	175
-------------------	-----

金木犀——または「夫婦という長旅」と「夫婦でゆく旅」の乖離について	178
-----------------------------------	-----

仮性アルツハイマー	182
-----------	-----

185

闇の豊かさ	189
-------	-----

189

●イラスト・書——外村節子

I. 小さな旅





平成のことわざ：社会がこのくらいめまぐるしく変わり、それにつれて人の心の有り様が変わり、生き方が変わってくると、「ことわざ」や箴言しんげんがあまり意味を持たなくなってくる。

■「稼ぎに追いつく貧乏なし」
すぐ追いつかれてしまうのでサラ金に走るか、一発狙ってギャンブルに走るしかない。
「稼いでも稼いでも追いつく貧乏神」と改める。

小さな旅

「今日は私の決心を聞いてもらおうと思ってやってまいりました」

おばあさんは、いつものように、ゆつくりと言葉を選び選び、話し出した。

「こちらに来てからホントに、皆さんによくしてもらい、ありがたく思っています。おかげさまで何不自由なくすごしています。特に由美子さん（長男の嫁）にはやさしくしてもらいありがたいことだと思っているのです。しかし、由美子さんの長女が…私には孫ですが…お産で近々戻ってくるのです。これ以上寄りのわがままは許されません。それで、故郷に帰るのはあきらめました。娘も職を変えて、東京のほうへ出てくることを計画しています。いい娘で毎晩電話をくれます。勤めを変えてまで私の面倒をみるつもりでいます。どうでしょう…」

菊おばあさんは八八歳、歩くとき杖をつくがまだ体もしっかりしているし、ボケでもない。二人の体は東京で働いており、娘も家を出て教師をしている。菊さんはもう長いこと秋田で一人暮らしをしていた。隣近所と皆仲がよく、そこで一生を終えるつもりであった。



■「石の上にも三年」
つまらなくても、辛抱することの大切さを教えている。実際、三年ぐらいしないと、そのことのホントの面白みが判ってこないものである。いまはこんな悠長なことは、はやらない。若者の行動様式から判断すると「石の上にも三日」である。

「石の上にも三日」

大学で授業が成り立たなくなっているという話を聞いてからもう一〇年以上たつ。最近では講義はおろかゼミも成り立たなくなっているという。患者さんに大学教員が何人もいるので、こつそり聞いてみると事態は思っていた以上に深刻である。

遅刻・早退、ケイタイをかける、メールを打つなどはいいほうで、私語がうるさく講義も聞こえないほどだという。ゼミも自分のところが済むと出て行ってしまうたり、聴いていなかったり…という。三〇〇〜四〇〇人相手の授業（講演会・演説会といったほうがいい）、三〜四〇人のゼミという「規模」がまず問題である。一人の教員が教育できる人数には限度がある。大学生なら授業は五〇人以下、ゼミは一〇人以下であろう。

一人の人がしっかり掌握できる人数は一〇人程度といわれている。ちなみに、どの国の軍隊でも小隊は一〇名前後である。小隊とは軍隊の最小の戦闘単位であるから、一〇名というのはおそらく経験則から来ているのであろう。フィンランドなどの北欧の小学校では一人の教師の受けも